

本号の記事

- 第2回全国理事会
- 佐賀大会決算報告
- 事務職委員研修会
- 学校組織マネジメント指導者養成研修

2015

協会ニュース 196号



福寿草

提供：季節の花300
<http://www.hana300.com/>

平成28年1月1日発行

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyo.jimdo.com/>

事務局：茨城県竜ヶ崎第一高等学校

電話：0297-62-2146

住所：茨城県龍ヶ崎平畑248



新年のごあいさつ

専門性を発揮し、学校経営に参画するために

資質・能力の向上を目指す

全国公立高等学校事務職員協会 会長 秋田 剛

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も本会活動に御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

経済協力開発機構（OECD）による教育施策に関する調査結果では、日本の公的支出割合は3.5%で、比較可能な32カ国中最下位で、6年連続であると発表があり、また、家計負担も生徒1人あたりOECD平均125万円を上回り、143万円であるということでした。そのようななか、国の財政制度等審議会は2016年度予算編成に向け、2024年度までに教職員定数37,000人の削減を求めています。これでは、教育予算を削り、保護者の負担を増やすばかりです。

全国知事会議でも「人口減少から学校の先生を減らされてしまってはいけない」と出席した安部首相らに述べ、教職員定数の確保を求めています。また、文部科学省の中央審議会でも、教職員定数の機械的な削減ではなく、多様な教育課題や地域のニーズに応じた確固たる教育活動を行うために必要な教職員数を戦略的に充実・確保すべきである、として緊急提言を行っています。

チーム学校の在り方と今後の改善方策についての最終答申(案)のなかに、「チームとしての学校」とそれを実現していく改善方策のために、国、教育委員会も「チームとして」取り組み、学校や校長を支援することが求められているとしています。国もこの答申(案)を受け止め、実現のために考慮していただきたいものです。

さて、今年の全国研究大会は、徳島県徳島市で8月4日から5日にかけて開催いたします。この日程は全国事務長会と重なってしまいました。日程調整がうまくいかず大変申し訳ありません。

徳島県は阿波踊りが有名ですが、この時期、練習風景が見られるかもしれないとのこと。おいしいものもたくさんありますので多くの方の参加をお願いいたします。

われわれ事務職員は、その専門性を発揮し、学校経営に参画することを期待されています。そのためにも資質・能力の向上に向け、会の目的でもある学校教育効果の進展に寄与できるようさらに努力していきたいと思っております。

平成 27 年度

第 2 回全国理事会報告

期日：平成 27 年 11 月 20 日（金）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

11 月 20 日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において今年度の第 2 回全国理事会が行われ、全国から都道府県市協会長が参集した。

理事会出席者は、協会役員を含め総勢 67 名。以下のおり全国理事会の概要を報告する。



<報告事項>

○協会の活動状況及び情勢について

会長より、理事会資料の「全国理事会議案書」に基づき平成 27～28 年の主な活動内容の報告と今後の活動予定についての説明を行った。

○第 68 回全国研究大会の決算報告等について

樋口実行委員長より、全国研究大会（佐賀大会）の決算報告と参加者の集計結果の説明を行った。

また、大会に多くの方々（793 名）が参加されたことに対して感謝の意が述べられた。

（収支決算報告は次のページに掲載）

○第 1 回全国理事会及び第 68 回全国研究大会並びに総会について

太田副会長より、平成 27 年 7 月 22～24 日の三日間に渡る佐賀大会の実績報告を行った。

○全国調査について

広報部長より、「平成 27 年度全国協会要覧」に掲

載の全国調査集計結果についての説明を行った。

<審議事項>

○第 68 回全国研究大会優秀研究発表者の表彰について

研究部長（太田副会長兼務）より、審査の経緯が報告され、最優秀は該当なし、最優秀に準ずるものとして千葉県の研究発表を推挙し表彰をする旨の提案があり、承認された。

○第 1 回全国理事会等の日程について

総務部長より、平成 28 年 8 月 3 日（水）徳島県徳島市「パークウェストン」での開催を提案し、承認された。

○第 69 回徳島大会並びに総会の日程について

山中副会長（徳島県実行委員長）より、以下のとおり提案があり、承認された。

なお、来年は 13 年振りの 8 月開催となる。

- ・期 日：平成 28 年 8 月 4 日（木）～5 日（金）
- ・日 程：4 日 13:00～16:20（総会終了 17:30）
5 日 9:20～16:20
- ・会 場：あわぎんホール（徳島市）
- ・全体会：記念講演
山田 実氏 徳島市阿波踊り振興協会理事長

<連絡事項>

○協会要覧の配付について

11 月中には各協会長宛てに、各校 1 冊の要覧を送付した。次年度は内容の見直しを検討している。

○全国大会の班別討議について

徳島大会では京都大会以来 5 年振りに、特別支援学校の業務（就学奨励費等）を討議として企画している。

○「学校事務」誌への原稿依頼について

学事出版社刊の「学校事務」誌の特集、連載等の執筆者を募っている。研究部から依頼があった場合には快く引き受けていただきたい。

（総務部長 小澤）

佐賀大会決算報告

第68回全国公立高等学校事務職員研究大会収支決算書

収入決算額 9,789,011 円
 支出決算額 9,789,011 円
 差引残高 0 円

収 入

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大会参加費	3,000,000	3,172,000	172,000	参加費 4,000円×793名
負担金	7,316,000	6,316,000	-1,000,000	協会本部 4,000,000円 九州支部 2,316,000円 (4000円×579校) (内訳) 福岡県 124校 長崎県 70校 熊本県 70校 大分県 57校 宮崎県 50校 鹿児島県 88校 沖縄県 75校 佐賀県 45校
補助金	100,000	300,000	200,000	教育公務員弘済会佐賀県支部 100,000円 佐賀市大会等開催支援補助金 200,000円
雑収入	1,000	1,011	11	預金利息
合 計	10,417,000	9,789,011	-627,989	

支 出

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大会準備費	3,030,000	3,050,250	-20,250	
旅 費	2,300,000	2,459,652	-159,652	全国大会視察旅費等
会 議 費	200,000	116,404	83,596	実行委員会会議使用料等
消耗品費	400,000	460,497	-60,497	ネームプレート・文具・用紙等
印刷製本費	100,000	0	100,000	各種資料等印刷
通信運搬費	30,000	13,697	16,303	各種資料等郵送料
大会運営費	7,350,000	6,738,761	611,239	
旅 費	140,000	65,780	74,220	文科省講話講師旅費等
会 議 費	300,000	219,078	80,922	全国理事会・常任理事会開催経費等
消耗品費	350,000	403,967	-53,967	大会運営・受付・記録用消耗品
食糧費	400,000	345,384	54,616	講師等昼食・お茶代
印刷製本費	900,000	852,894	47,106	大会要項・資料等印刷 ・資料袋作成
通信運搬費	30,000	10,710	19,290	大会案内等郵送料
使用料及び賃借料	2,800,000	2,680,085	119,915	大会会場使用料・機器レンタル料
報 償 費	1,600,000	1,542,725	57,275	講師謝金等
委 託 料	830,000	618,138	211,862	旅行取扱い業務委託、看板作成業務委託
予 備 費	37,000	0	37,000	
合 計	10,417,000	9,789,011	627,989	

平成 27 年度

事務職員研修会

- ・ 講演 「育てる作法」
- ・ 班別事例演習

講師

(株) マネジメントサポート
マネジメントサポートグループ
研究開発専任講師室次長兼トレーナー
吉野 有紀 氏

平成 27 年 11 月 20 日（金）、第 2 回全国理事会の出席者も参加し、「育てる作法」研修が国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において行われた。

講師に株式会社マネジメントサポートから吉野有紀氏を招き、午前中は講義、午後は全国から推薦された研修生 65 名を班別に分け事例演習・ロールプレイングによる研修を行った。

吉野氏は、「接遇マナー」「指導育成者研修」など企業・自治体において数々の研修指導に活躍しておられる。今回は吉野氏に、先輩と後輩の間の指導の在り方、自己信頼を取り戻す育てる作法の習得についてご指導いただいた。

以下は概要。詳細については会員専用サイトをご覧ください。

【テーマの背景】

組織マネジメントの原点と言われる「アメとムチ」。つまりは「ほめることと叱ること」だが、どちらも難しく、また、どちらが欠けてもうまくいかない。

強い信頼関係と良好なコミュニケーションを基礎に、上司・指導者と部下、後輩の間の指導の在り方を考え、自己信頼を取り戻し健全で自然な職場環境を作るために求められる指導、育成のスキルを習得することを目指す。

また、職場の指導者が良質な職場環境を継承し組織を発展させるために、今何をすべきかを考察する。

【対話式講義の主題】

- ・ 人材育成の 4 本の柱
- ・ OJT とは
- ・ 3 つのビジネススキル
- ・ 2 種類のコミュニケーション

【事例演習、ロールプレイング】

＜育てる作法の法則（抜粋）に沿って＞

良質な職場風土を継承するために「育てる作法」の法則を守り、上位者が今何をすべきかを考えることで組織を高みに動かす。

育てる作法の法則は、成長する組織に不可欠なルールである。

平成 27 年度

文部科学省講話

「チームとしての学校～事務職員～」
初等中等教育局 初等中等教育企画課 専門官
山本 剛 氏

第 2 回全国理事会参加者も含め、文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 専門官 山本剛氏より、「現在の教育改革の動向」と題し、「チーム学校について」講話をいただいた。



「チームとしての学校の在り方と今後の方策について」は、7 月に中間まとめが報告され、現在はパブリックコメントが実施されており、まもなく最終答申がされるようである。「チーム学校」では、学校マネジメント機能の強化のため、学校事務職員に期

待される面も多く、参加者の関心も高く、いつも以上に講話に集中していた。

当日の資料

- ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申（素案）のポイント）
- ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申（素案））【骨子】
- ・参考資料（我が国の教育をとりまく現状）

「チーム学校」の詳しい内容は、文部科学省のホームページもご覧いただきたい。

（副会長兼研究部長 太田）

平成 27 年度

学校組織マネジメント指導者養成

研修（第 3 回：高等学校事務職員研修）

茨城県つくば市にある「独立行政法人教員研修センター」において、122 名の参加者による平成 27 年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第 3 回:高等学校事務職員研修)が平成 27 年 11 月 9 日（月）～11 月 13 日（金）の日程で開催された。

協会からは、指導・助言者（演習 3・演習 4）として 5 名が 11 月 12 日～11 月 13 日の 2 日間参加した。

研修の目的や内容については以下のとおり。研修参加者による誌上報告が「学校事務 平成 28 年 3 月号」で行われる予定なので、ぜひそちらもご覧いただきたい。



1 目的

学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。

本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター

3 共催 文部科学省

4 会場 独立行政法人教員研修センター

5 受講者

（1）受講資格

高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う者。

（2）推薦人数

都道府県（高等学校及び特別支援学校を設置する市町村含む）から 3 名以上・各指定都市から 1 名以上。

6 研修内容

<講義 1>

「教育改革の動向について」

文部科学省大臣官房審議官

藤原 章夫

目的：最新の教育改革等について理解を深める

<講義 2>

「学習指導要領とこれからの学校運営」

文部科学省初等中等教育局

視学官 望月 昌代

目的：学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める

<演習 1>

「自校の取組」

目的：他校の特色ある取組について共有する

<講義3>

「信頼される開かれた学校づくりのために」

千葉大学教育学部

教授 天笠 茂

目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める

<講義・演習1>

「学校組織マネジメント①」

教育改革実践家

杉並区立和田中学校・元校長

藤原 和博

目的：学校組織マネジメントの実際について

<講義・演習2>

「学校組織マネジメント②」

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

准教授 大野 裕己

目的：学校組織マネジメントの発想・枠組みについて理解を深めるとともに、組織の環境分析手法の一つであるSWOT分析の基本的手法を習得する

<事例発表>

「特色ある学校運営の取組」

事例発表①

茨城県立牛久栄進高等学校

主査兼事務長 駒場 一吉

事例発表②

群馬県立あさひ特別支援学校

事務長(次長) 須永 利子

目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る

<演習2>

「学校運営を支える事務職員の役割」

目的：学校運営における事務職員の役割について振り返る

<講義・演習3>

「学校組織マネジメント③」

京都教育大学大学院連合教職実践研究科

教授 竺沙 知章

目的：学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める

<演習3>

「学校運営を支える事務職員の役割」

国立教育政策研究所初等中等教育局研究部

総括研究官 藤原 文雄

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

事務室長 秋田 剛

茨城県立結城第二高等学校

主査兼事務長 富田 英明

千葉県立船橋法典高等学校

事務長 太田 秀男

茨城県立下妻第一高等学校

事務室長 小澤 京

埼玉県立越谷西高等学校

事務長 大原 三夫

目的：学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する

<演習4>

「学校運営を支える事務職員の役割」発表

目的：学校運営における課題に対する改善策等を学ぶとともに、事務職員の役割について理解を深める

<講義4>

「学校組織マネジメントを推進するリーダーとして」

文部科学省初等中等教育局

視学官 長尾 篤志

目的：学校組織マネジメントを推進するリーダーとなるための課題を整理する

本部活動報告

●常任理事会（東京・小山台会館）

- 11/6 全国理事会・徳島大会分科会運営ほか
12/11 全国理事会・事務職員研修会反省ほか

●第2回全国理事会

- 11/20 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

●事務職員研修会

- 11/20 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

●学校組織マネジメント指導者養成研修

- 11/9～11/13 茨城県・教員研修センター
会長以下5名、指導・助言



編集後記

表紙の花「福寿草」の花言葉は、永久の幸福・幸福を招く等です。正月の飾り物にする花です。

昨年6月より全国協会理事、はじめて広報の担当をして、報告・連絡・相談・ワードの操作 etc 学んでいます。この経験は、現在の職場につながり、仕事が広がります。

次号「協会ニュース」では第69回全国大会（徳島大会）について、特集します。

（橋村）

○全国協会 HP アドレス

<http://zenjikyو.jimdo.com/>

検索名は、「全国公立」または「全国公立高等学校事務職員協会」で可能です。

○「協会ニュース」についてのお問い合わせ

ご連絡は次の広報部編集担当まで

・群馬県立太田女子高等学校／菊地

TEL : 0276-22-6651

FAX : 0276-22-4701

mail : kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

・東京都立松原高等学校／橋村

TEL : 03-3303-5381

FAX : 03-3304-3062

mail : lkumi_Hashimura@member.metro.tokyo.jp

・千葉県立船橋古和釜高等学校／平田

TEL : 047-466-1141

FAX : 047-463-4816

mail : t.hrt5@pref.chiba.lg.jp

